

お雛さまを飾る

2015年2月21日（土）～3月22日（日）

三月三日は季節の節目である五節句の一つ、上巳の節句にあたります。この日は雛祭りといわれ、雛人形をかざり女の子の成長を祈ります。雛かざりの風習は平安貴族の間でおこなわれた雛遊びと上巳の節句に行われたお祓いの儀式が結びついて行われるようになったといわれます。江戸時代後期には、宮中の装束を写した「有職雛（ゆうそくびな）」、現代の雛人形に繋がる「古今雛（ここんびな）」などが現れます。今回の展観では京都の「丸平」大木平蔵、東京の永徳齋という東西の名匠による明治末～昭和初期に製作された雛人形を陳列いたします。

丸平の雛人形		
1	男雛・女雛	明治末期
2	三人官女	大正期
3	五人囃子（ごにんばやし）	昭和初期
4	隨身（ずいしん）	大正期
5	仕丁（しちょう）	大正期
		個人蔵

二代永徳齋の雛人形		
6	男雛・女雛	明治時代
7	三人官女	
8	五人囃子（ごにんばやし）	
9	隨身（ずいしん）	
10	仕丁（しちょう）	
		個人蔵

11	梅に群鶴 蒔絵 文台	江戸時代	本館蔵（カザールコレクション）
12	藤巴紋初音 蒔絵 手箱	江戸時代	
13	九曜・桐唐草紋蒔絵 雛道具	江戸時代	

三代永徳齋の雛人形			
14	男雛・女雛、三人官女、隨身、五人囃子、仕丁	明治末期～昭和初期	個人蔵
15	各種雛道具	江戸時代	
16	結目九繫・鷹羽違紋 蒔絵 懸盤	江戸時代	本館蔵（カザールコレクション）

※男雛と女雛、京都では古来左が上座なので、男雛を向かって右に、大正期以降西洋の右上座の考え方が入り、東京では男雛を向かって左に置くようになりました。今回の展示でも京都と江戸で置き方を変えています。

京都・丸平と東京・永徳齋

京都の丸平大木人形店は、明和（1764-71）年間に創業。屋号は丸屋といい、代々大木平蔵を襲名する人形師です。雛人形・五月人形・有職人形・御所人形をはじめとした京人形を制作、現在も各地の名家に納めています。この雛かざりは作風から、四世大木平蔵(1860-1939)により制作されたことがわかります。内裏雛は明治末期、三人官女・仕丁・隋臣は大正期、五人囃子は昭和初期の作です。

永徳齋は東京を代表する人形司です。初代永徳齋山川雄七は京都の御用人形司「御雛屋」岡田家の職場頭で、後に岡田家の養子となり岡田永徳として御雛屋の十二代を継ぎ江戸店を預かりました。しかし明治維新後に養子縁組を解消し、山川永徳齋として日本橋十二軒に人形店「永徳齋」を開きました。初代の長男である二代永徳齋山川慶次郎（1858-1927）は名工として知られ、明治41年（1908）、五十歳で永徳齋を名乗ります。三代永徳齋山川保次郎（1865-1941）は初代の次男で、長らくアメリカで博物館に展示する人形の制作にあたっていました。帰国後三代を継ぎました。四代目を襲名するはずだったのは二代の六男で、昭和初年からマネキン人形の制作にたずさわり、三代永徳齋とともに永徳齋の経営を担いました。しかし四代襲名はせず、人形司永徳齋は昭和28年に閉店しました。